

はこぎまちづくり

発行 箱崎まちづくり協議会

まちづくり広報紙発刊に寄せて 会長 桜井英夫

私たちのふるさと「箱崎」は、管崎宮と九州大学を二つの顔として、長い歴史と学問のまちを任じ、生々発展して参りました。そのことは今も変わりありません。しかし、ここ数年、まちの様相が少しずつですが、変化をみせてきました。それは、近年JRの高架化、新駅周辺の区画整理、堅粕・阿恵線道路、商店街の問題、そして九州大学の西区への移転決定等による様々の動きによるものであります。しかも、その変化の度合いは、ますます加速化されることと考えられます。現在、わが校区は未だ嘗て遭遇したことのない大きな変革期を迎えております。この機会に私たち住民は徒らに座視することなく、むしろこの機を好機と捉え、快適で元氣あふれる新しい箱崎を創ろう、箱崎をより住みよいまちに変えよう、数年後、自治連合会をはじめ、校区のあらゆる階層、団体を結集し、箱崎まちづくり協議会が結成されました。

協議会発足以前に、「箱崎のマップ作り」を多くの人で取り組みました。おかげで立派なものが出来、内外で好評を得ております。さらに、「まちづくりドッグ事業」として住民意識調査による町の健康診断、まちの歴史的文化遺産の総点検、区内に取組み、二回にわたって、トーク事業を実施し多くの住民の参加を得ました。校区民みなさまのあたたかいご支援、ご協力もあって、本格的なまちづくり作業もようやくその緒に付いた感じがいたしております。

この度、協議会広報紙を発行するにあたり、先ずは、さきの総会で決定の本年度事業その他について、校区のみなさんにご報告し、積極的ご協力を賜り、みんなでまちづくりを考えようとするものであります。この広報紙がささやかながらも、まちづくりのよりどころともなれば、望外の幸せに存じます。校区の皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

切実な問題に対処するため協議会を設立しました。

◆平成九年度

- 箱崎地域づくり推進準備会議を開くことから始まる
- 箱崎まちづくり結成発起人会議
- 箱崎まちづくり推進委員会結成総会(八月二十六日)となる。

◎事業名

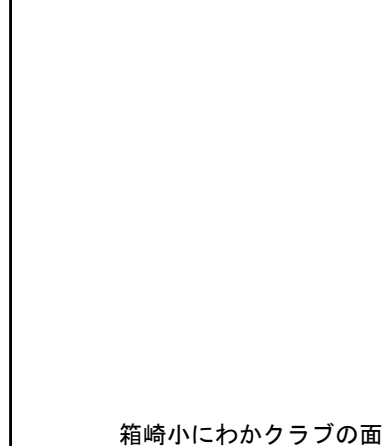
- まちづくりドッグ事業

◎事業内容

- ① 住民意識調査(七千二百八十二世帯)によるまちの健康診断
- ・ A分科会担当：調査の回収まとめ、中間報告
- ② まちの歴史的文化遺産の総点検
- ・ B分科会担当：管崎宮をはじめ、九大構内、町内の文化遺産点検及び先達を集めての箱崎、今昔を語る座談会
- ◆平成十年度
- ・ 箱崎まちづくり推進委員会総会
- ◎事業名
- ・ 協議会名称を協議会へ変更
- ◎事業名
- ・ まちづくりドッグ事業

まちづくり協議会のあゆみ

博多カッチリ節で総踊り



箱崎小にわかクラブの面々

箱崎校区「夏祭り」盛大に開催

◎事業内容

- ① 箱崎未来トークの開催
- 各町からの代表五十三名(その他協議会、オプザーバー六十名を含め計百十三名)を集めての
- 「箱崎の歴史的文化遺産の総点検結果をまとめた写真と解説
- ・ 住民意識調査結果のコメントと解説を混じえた公表と意見交換会
- ② 協議会委員の研修視察会
- 北九州市八幡西区木屋瀬：旧長崎街道、街並み資料館
- ③ 第二回箱崎未来トークの開催
- ・ 三つの分科会に分かれて開催
- ・ 第一分科会：主として町の交通・道路対策と都市計画道路について
- ・ 第二分科会：九州大学移転跡地利用問題について
- ・ 第三分科会：町の福祉と環境対策、諸行事・祭事等について
- 以上、三分科会のテーマに基づき、問題提起と意見発表、交換、まとめのコメントを中村善一・今里滋両分科会長よりうける。
- ◎その他活動内容
- ・ 校区夏祭りを発展的に推進するため、箱崎まちづくり協議会が主催することを承認
- ・ 西鉄ストア跡地の利用に対する市長宛要望並びに市議会議長宛の請願を行った
- ・ 「まちづくりの拠点となる施設の整備に関する要望書と請願書」を提出

箱崎まちづくり協議会役員名簿

平成11年11月現在

役職	氏名	備考
会長	桜井 英夫	自治会連合会会長
副会長	梅崎 繁	自治連合会副会長
副会長	安武 善江門	公民館館長
事務局長	戸次 義雄	自治会連合会副会長
会計	古田 清	自治会連合会会計
書記	藤野 良一	自治会連合会
監査	安松 武	明寿会連合会会長
監査	山口 毅	箱崎商店連合会会長
委員長	古田 鷹治	歴史・史跡を守る分科会
副委員長	井上 俊男	"
"	山口 毅	"
委員長	箱嶋 次雄	第一分科会
副委員長	木下 順治	"
"	我部 郷子	"
委員長	佐々木 和男	第二分科会
副委員長	三宅 文照	"
"	横田 茂代	"
委員長	藤野 重久	第三分科会
副委員長	小田 昭寿	"
"	藤野 紀代子	"

《今年の夏祭りは一味違った》

平成十一年八月七日土曜日、箱崎小学校運動場にて「箱崎校区夏祭り」が箱崎まちづくり協議会の主催により開催されました。台風の接近で開催が危ぶまれましたが皆様の熱意で台風も外れ天候にも恵まれました。前日のステージ組立て・電気配線・会場造り等、全て体協・PTA・子育て連・消防分団を中心とした若いスタッフが汗を流してくれました。

夏祭りでは、箱崎小金管バンドからスタートし、福岡市職員OBの生バンド演奏、そのバックミュージックにのっての各団体代表のカラオケや箱崎小「にわかクラブ」並びに「箱善組」による博多にわか披露。踊りでは子ども達も一緒に踊ってくれた「博多かつり節」「炭坑節」「東区音頭」。今年は夜店が会場内に多数出店し生ビール・手造り菓子・とろろでん・わらび餅等、どの店も売りきれていました。福引きでは抽選ごとに皆様に喜一憂され、最後の花火まで大いに盛り上がりました。

「今年の夏祭りは良かったばい」と云う声を多く聞きました。来年も地域住民の声に答えて、夏祭りが開催できますよう「まちづくり協議会」がんばります。

はこぎまち 四方山話 (一)

その一

十一月三日文化の日、校区の敬老会が好天に恵まれ盛大に開催された。本来、敬老の日は九月十五日と国では設定されている。しかし、箱崎校区においては管崎宮のおひざ元、ご存知の筑前の秋祭りのトップを飾る放生会の真最中で、とてもこの時期には敬老会のような大きな校区行事は実施できない。爾来、本校区では文化の日をこの日に充て、恒例として長年実施されてきた。この時期いつも思うことだが、共催の校区の各種団体、特に公民館、会館、体協、婦人会、消防団、子育て連、小学校そしてPTA等々の、善意の活動には目を見張らせるものがある。自治会連合会が主催してやるのだが、設営、運営、安全確保など上述団体の助力がなければ、とても出来るものではない。しかも式典・演芸の間中を活用し、各種団体相互の親睦の時を作出す等の有効な手だてに心から敬意を表する。校区の敬老者も多く、本年は七三八名が名簿に記載されているが、参加の敬老者の皆さんが喜んでいただいたのはもちろんである。貴重な時間を割愛しての皆さんの積極的な協力には頭の下がる思いである。お盆の校区精霊流しの場合もまた然りである。今年からは、まちづくり協議会が主体となって校区夏祭りが実施された。これも見事な企画、運営により大盛況であった。みんなで創り上げたという表現がぴったりである。私は涙の出る程嬉しく、わがまちわが校区を誇りに思っている。

その二

数日前、箱崎小学校四年生の田村君と山崎君という明るく元気の良い、しかも礼儀正しい二人の児童の来訪をうけた。今度学校発表会があるから、箱崎の浜、海の今、昔を調べたいとのこと。私もよく知らないから、いっしょに勉強しようと言った。「お願いします」とキラキラ瞳を輝かせて帰っていった。清々しい気持ちになった私は、ふるさとに住むこの後輩たちのためにも、われわれは今にこそまちづくりに力を傾注せねばならぬと考えた。そして、この希望あふれる澄んだ瞳に箱崎の将来を託したいと思った。数日後、藤野秀司箱崎漁協組合長と私は、小学校に招かれ、四年生のみならず勉学のひとときを過ごした。

その三

古い歴史を誇るわがふるさと箱崎は、今極めて重大な変動の秋を迎えている。われわれの先人たちが、幾多の苦難に耐え営々と培ってきたわがまちが、部分的には微妙にその様相を変えつつある。わがまちは古くから開けた地域であるだけに有形、無形の史跡、文化財も多い。今日の箱崎を育んできた様々の歴史、伝統、風俗、行事もある。古きを温ね新しきを学んで、これからのまちづくりの指針ともすべく、これから先人たちの足跡を尋ねてみたいと思う。まちづくり協議会もすでに各分科会のそれぞれが活動を始めている。この「四方山話」は、このあと箱崎のあれこれについて少しずつ採りあげ、みんなでふるさと箱崎を学んで行きたいと考えている。よろしくご協力をお願いします。(歴史分科会委員長)

各分科会の取り組み

管崎宮と九州大学を二つの顔とする、わが『ふるさと箱崎』が今大きく変貌しつつあります。JRの高架化や関連する区画整理事業、商店街の再構築そして九大の西区への移転等、わがまちが今日までかつて経験したことのない大きな岐路へ立たされていきます。

まちづくりを考える場合、歴史を抜きにしては考えられません。当然のことながら、わがまちづくり協議会も箱崎の歴史を生かしたまちづくりを基本理念としています。まちづくりは、わがまち、わがふるさととの歴史を学び知ることから始まります。先人たちが営々として築いてきた私たちのまちの歴史を正しく学ぶことによって、ふるさとの良さも悪さも再認識、再検討したいと考えております。わがふるさと箱崎は、古くから開けた地域であるため、史跡も旧跡も多く、伝統、伝承行事も多い。その多さゆえ、或いはつい見逃しがちなものもあるうかと思われまふ。今きちんと把握し、ふるさとの再発見に努めたいと思っております。

今年度は、地域内の歴史探訪を階層別により回を重ね、年内に延べ三回位を考えています。併せて、先達、古者または専門家などからも話を聞き学びたいと考えております。一方、基礎資料としての箱崎に関する資料収集にも精力的に取り組むたいと考えております。将来にわたっては、伝統・伝承行事、芸能等についても、他の分科会との関連も

ありますので、連絡協議して進めたいと考えております。

▼「第一分科会」

テーマ…九州大学箱崎キャンパスの移転跡地対策に関する事

九州大学移転に関しては、平成三年度に西区元岡地区に学長試案が承認されて以来、具体的な移転スケジュールが不明であったが、本年七月に移転時期及び順序が決定された状況にあります。これによりまずと、第一陣の移転開始から移転完了までを概ね十年程度と想定してあります。詳細な内容は先日配布しました、まちづくり協議会「九州大学移転跡地利用問題ニュース」をご覧ください。

まちづくり協議会としては、六本松地区と同様に「まちづくり構想委員会」が組織され、まちづくり構想の検討がなされることと考えられますので、構想委員会に将来の箱崎の子供たち、孫たちに残せる立派な提言を策定するため研究、検討していきたくと考えています。なお、十一年度の事業計画は次のとおりです。

《広報紙の発行》
箱崎校区住民に大学移転計画の現状と計画について情報を周知するため広報紙を発行します。

《九州大学箱崎キャンパスの施設等現況調査》
期日 十二月十二日(日)
身近にある箱崎キャンパス内にある施設、史跡や保存樹などを探検しながら、将来、この広大な敷地をどう利用したいのか跡地利用のイメージをつかむため現況調査を実施します。

▼「第二分科会」

テーマ…都市計画道路と都市整備に関する事
《箱崎本通りに関する都市計画道路問題及び道路規制問題の検討、住民意識調査》

箱崎の道路事情を考える時真っ先に浮かぶのが県道福岡直方線、いわゆる本通りではないでしょうか。県の主要道路でありながら道幅は狭く、通過車両だけが多い、子どもたちやお年寄りにとって非常に歩きにくく、危険な道路となっております。

平成十年度から十二年度にかけての箱崎商店街リフレッシュ事業により、車道の中心部と路側帯を色分けするカラー舗装がなされます。しかしながら、これだけでは現況の改善にはほど遠いと思われまふ。そこで一方通行や極端な速度制限などの、思い切った交通規制が考えられます。これには一長一短もあり、住民意識の十分な合意形成が必要です。

またこの本通りには都市計画道路が設定されており、これに対しても住民の意思表示をしていくことが重要です。これらを協議会で十分検討して住みやすいまちづくりを目指します。

▼「第三分科会」
テーマ…住民に密に関係する町の福祉・環境整備
催事等に関する事

《箱崎校区夏祭り》
期日 八月七日(土)
会場 箱崎小学校運動場
主旨 夏祭りを通して、校区民の融和と親睦を図りコミュニケーションづくりを推進するため開催しました。

▼「第三分科会」

《第三回箱崎未来トーク》
期日 十一月二十一日(日)
会場 箱崎会館
主旨 箱崎で生活する人たちの視点で町の将来や問題点など何でも話し合っ、自らの手で箱崎のまちづくりを進めるため、今回は箱崎商店街の浮揚対策の一環として「商店主」対「住民」との意見交換会を実施し、九州大学チャレンジ&クリエイション及び東区大学・地域まちづくり準備委員会事業「箱崎商店街の活性化」の研究・推進を支援するため開催しました。

《まちの安全チェック》
期日 九月・十二月・三月
会場 箱崎校区内
主旨 箱崎を美しく住みやすい町にするため、街灯や道路等の安全確認をするとともに、町の美化を害する違法広告物等を撤去します。

《まちづくり新聞の名称を募集》
皆さんに親しまれるまちづくり新聞にふさわしい名称を募集します。
箱崎公民館までご連絡下さい。六五一一七七〇八

《まちづくり新聞の名称を募集》
☆たいへん遅くなりましたが創刊号をいたしました。今後とも皆様と一緒にまちづくりを考える広報紙にしたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

☆次号は、第三回未来トークの内容及びキャンパスウォークの様子等について掲載の予定です。

お知らせ

☆たいへん遅くなりましたが創刊号をいたしました。今後とも皆様と一緒にまちづくりを考える広報紙にしたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

☆次号は、第三回未来トークの内容及びキャンパスウォークの様子等について掲載の予定です。

歴史・史跡を守る分科会